

# 高大連携による「歴史総合」授業の研究

寺前 駿（和歌山県立和歌山北高等学校教諭）

三品 英憲（和歌山大学教育学部教授）

## I 研究の目的

2022年度より新学習指導要領が実施され、高等学校における歴史教育は大きな転換点を迎えた。これまでの歴史教育では人類史は「日本史」と「世界史」とに分割されてきたが、2022年度からは必修科目として「歴史総合」が置かれ、そのうえで選択科目として「日本史探究」「世界史探究」が置かれることになったのである。このうち特に歴史教育における新しい視点の導入を特徴づけるのが「歴史総合」であろう。この科目の目標は、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』（56頁）によれば以下のように設定されている。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象については、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

このように「歴史総合」は、現在に直結する時代として近現代を取り上げ、現在的な問題意識のもとに生徒に歴史的経緯を理解させ、考察させようとするアクチュアルな科目として設定されている。しかもその学習においては諸資料の活用が重視されている。歴史に関わる諸資料を読み解き、問いを立て、その問いに対して自分なりの答えを導き出す力を養成することが求められていると言えよう。そうだとすれば、この科目は「探求」科目につながる基礎的な科目であるにもかかわらず、本質的には「探究」科目と同じである。授業者は深い歴史認識を持っていることが要求されるだろう。本共同研究は、こうした「歴史総合」の目標を踏まえたうえで、高等学校の歴史授業においてどのような諸資料を用いた授業が可能なのか、初歩的に研究することを目的としたものである。（文責：三品）

## II 研究の経過

昨年度までの2年間（2020年度～2021年度）、この枠組みの共同研究では「世界史B」の授業の研究を行った。研究の形式は、寺前が和歌山北高校の第2学年の「世界史B」の授業を行い、三品がそれを参観し、その後協議するという形で実施した。今年度（2022年

度)は、新しく始まった学習指導要領に盛り込まれた「歴史総合」の授業の研究を行った。研究の形式は、昨年度までと同様に、三品が寺前の和歌山北高校の第1学年の「歴史総合」の授業を参観し、その後協議するという形で実施した。

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』における「歴史総合」の内容は、「A 歴史の扉」「B 近代化と私たち」「C 国際秩序の変化と大衆化と私たち」「D グローバル化と私たち」と4つの項目に分類されている。特に「B 近代化と私たち」「C 国際秩序の変化と大衆化と私たち」「D グローバル化と私たち」の三つは近現代の歴史の大きな変化の観点と捉えることができる。そのため「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」について、1年間の「歴史総合」の授業を通して生徒たちが学ぶことができるように年間学習計画を立てた。今回の研究では、「近代化」については「産業革命」と「第二次産業革命と帝国主義」の研究授業を、「国際秩序の変化と大衆化」については「第一次世界大戦」の研究授業を実施し、協議会にて三品から授業内容に関する事、年間を通した「歴史総合」の授業計画に関する事の両方の助言をもらった。

また、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』では、各教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」と整理され、各教科において教員が生徒に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確になった。これに合わせて評価についても「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点からなる観点別評価に整理された。この観点別評価の方法についても「第一次世界大戦」の研究授業において重点的に研究を行った。

以下は、今年度実施した研究打ち合わせと授業参観、協議会の記録である。6月24日の協議会と研究打ち合わせは和歌山大学の三品研究室にて行った。そのほかの協議会・研究授業・打ち合わせはすべて和歌山北高校で行った。

2022年5月19日(木)	14:00~15:30	研究打ち合わせ
5月27日(金)	14:25~15:15	研究授業1年D組「産業革命」
	15:15~16:30	協議会
6月14日(火)	11:55~12:45	研究授業1年A組「第二次産業革命と帝国主義」
6月24日(金)	14:00~15:00	協議会
7月27日(水)	14:00~15:30	研究打ち合わせ
9月15日(木)	9:55~10:45	研究授業1年H組「第一次世界大戦」
10月13日(木)	14:00~15:30	協議会

以上のように、打ち合わせを2回、研究授業を3回、協議会を3回実施した。

(文責：寺前)

### Ⅲ 成果と課題(主に高校側の視点から)

2022年5月19日に実施した研究授業「産業革命」では、産業革命によって変化したものについて資料や教科書から読み取る活動を行った。使用した資料は、飛び杼を用いた織機の写真(トヨタ産業技術記念館にて寺前が撮影)、多軸紡績機の写真(トヨタ産業技術記念館にて寺前が撮影)、蒸気機関車の写真(京都鉄道博物館にて寺前が撮影)、工場法をめ

ぐる特別委員会の報告の文章（歴史学研究会編『世界史史料 6 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ』、岩波書店、2007年、所収）である。この研究授業では、産業革命によって資本主義社会が生まれ、それによって働き方、生活様式、都市と農村の変化したことについて生徒が思考することをねらいとした。「問い」としては、「飛び杼、多軸紡績機、蒸気機関の登場によってどのようなメリットが生じたか」という問いと、「産業革命の結果、働き方、生活様式、都市と農村の環境についてどのような変化が起きたか」という問いを設定した。

協議会では、三品から、授業では産業革命によって始まった労働者の低賃金長時間労働や環境汚染といった負の側面が多く強調されていたが、産業革命によって生産力が飛躍的に拡大したことや社会が発展したことなどの正の側面の説明が足りなかったのではないかと意見が出された。この指摘を受けて寺前は、「近代化」という観点において資本主義社会の成立という側面を重視することは重要であると認識した。

6月14日に実施した研究授業「第二次産業革命と帝国主義」では、19世紀末の国際情勢について第二次産業革命と帝国主義を中心に資料や教科書から学ぶ活動を行った。使用した資料は、イギリス支配下のインドの鉄道に関する文章（木谷勤『帝国主義と世界の一体化』、山川出版社、1997年）、16世紀から19世紀にかけてのヨーロッパのアフリカ観・アジア観に関する文章（前掲、木谷勤著書）、19世紀のヨーロッパの植民地獲得競争に関する文章（歴史学会編『「歴史総合」世界と日本』、戎光祥出版、2022年）である。この研究授業では、19世紀末の国際情勢について第二次産業革命や帝国主義の概念を用いて説明できるようにすることをねらいとした。この授業では、生徒に対し「19世紀末の世界はどのような時代か。自分の考えを理由とともに説明しなさい」と問いかけた。

協議会では、三品から、19世紀のイギリスやフランスの帝国主義と20世紀のアメリカ合衆国の違いについて明確に踏まえるべきであるとの意見が出された。19世紀帝国主義国としてのイギリスやフランスは、自国で生産過剰となった軽工業製品の市場として植民地を求め、領域的支配を伴った。これに対して20世紀のアメリカ合衆国は、第二次産業革命を経て重化学工業が経済の中心となっており、求める市場は単純な消費財の市場ではなく、軽工業などが一定程度発展していてアメリカの製造する生産財を需要する市場である必要があった。このため20世紀のアメリカは植民地を求めず、むしろ貿易相手国に生産財と資本の輸出に適合的な経済成長を促す政策をとっていた。寺前は、こうした19世紀型帝国主義と20世紀のアメリカとの違いは、第一次世界大戦後の国際関係を理解するうえでも必要であり、その違いを踏まえて授業を行うべきだと認識した。

9月15日に実施した研究授業「第一次世界大戦」では、第一次世界大戦の被害が拡大した理由について、当時の写真やポスター、教科書から考える授業を行った。写真では、塹壕や飛行機・戦車など新兵器に関するものと軍需工業で働く女性、またイギリス兵として動員された植民地の人びと（インド人など）に関するものを使用した。また、ポスターでは、アメリカの「自由公債」の購入を呼びかけるポスターなどを使用した。この研究授業では、第一次世界大戦の被害が拡大した理由について、総力戦体制が構築されていった流れを考え理解することを狙いとした。そのため「総力戦」の意味と特色とは何か」という問いと、「戦争の被害の拡大に最も影響を与えたと考えられる第一次世界大戦の特徴とは何か」という問いを設定した。

このうち1つ目の「問い」は、総力制体制について教科書等を参考に、調べまとめる活動であるため「知識・技能」に関する評価の対象とした。2つ目の「問い」は、第一次世界大戦の被害の拡大の要因について、総力戦体制という概念をもとに考察、構想する活動であるため「思考・判断・表現」に関する評価の対象とした。この「問い」の評価基準は、第一次世界大戦の被害の拡大に最も影響を与えた要因について、総力戦体制やそれによる大衆の出現などの根拠に基づいて考察し、自分の考えを表現することができることで「A（十分満足できる）」評価の基準とした。また、第一次世界大戦の被害の拡大に最も影響を与えた要因について考察のみをしている場合は「B（おおむね満足できる）」評価とした。そして、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、ワークシートのまとめ方で評価した。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の2つの側面からの評価が求められている。これを参考に、ワークシートに教員が示した空欄の解答のみだけでなく、メモ欄に自らが知識を獲得するためにまとめた内容が記されていれば「A（十分満足できる）」評価と設定した。以下の「A（十分満足できる）」評価の生徒の解答例（【図1】）では、メモ欄に塹壕、秘密外交、二十一か条の要求に関して、自ら学習を調整するために粘り強い姿勢で学習に取り組んでいることがわかる。

以下に2つ目の問いに対する生徒の解答を列挙する。「特徴…戦争に加わる人数が増えた／理由…総力戦になり非戦闘員が労働力として動員し、毒ガスなどの新兵器が投入されたから」「特徴…新兵器の投入／理由…これまで存在しなかった兵器の登場である意味近代化が進んでしまったため、多くの新しい兵器が作られ、兵士たちを傷つけたから。」「特徴…長期化／理由…塹壕を作り過ぎて戦争が長引き、被害が拡大していった。」「特徴…被害の拡大に最も影響を与えたのは総力戦／理由…マスメディアによる働きかけがあり、非戦闘員や植民地の人までが動員されて戦争が長期化したことや、総力戦の結果、大量の戦死者が出たことが挙げられる。」「特徴…植民地が参加した。／理由…アジア・アフリカの植民地や従属地域の人や物資も動員されたことで、人数が増加し、大きな拡大をもたらした。」「特徴…第一次世界大戦中のポスター／理由…総力戦で、非戦闘員の人達、国民全体が協力し合っているから。」「特徴…いろんな国が戦争に参戦した。／理由…1つの国では、勝てないから、他の国と協力して戦力を高めたことによって戦争の規模がおおきくなった。」以上である。様々な解答がみられ、授業のねらいである第一次世界大戦の被害拡大の理由について考えることができていると捉えることができる。

協議会では、三品から、機関銃の登場により塹壕による戦いが生まれ、その対策としての毒ガス、戦車の登場という段階をおった説明をするべきとの意見が出された。寺前は、このような因果関係を明確に説明することにより、戦争の被害拡大の過程がよりわかりやすく伝わるはずであると確認した。

以上が研究授業の概要である。今年度は、文章の史料以外にも写真やポスター、書籍を用いて生徒の思考力の向上をねらう授業を行うことができた。その一方で、文章の史料を使用する頻度が低下した。また、観点別評価を方法に関しても整理することができた。授業の進度の都合上、「グローバル化」に関する授業は、高校における三学期に行うため、研究授業が実施できなかった。

今後の課題は、本年度は実施することのできなかった「グローバル化」についての研究授業を行うことや、来年度以降、和歌山北高校で実施する「世界史探究」「日本史探究」に関する研究を行い「歴史総合」との関連や生徒の思考力の育成につながる「問い」の作成を行うことである。来年度以降も、このような課題に対する研究を行っていきたい。

(文責：寺前)

### 17 総力戦となった第一次世界大戦

#### 今回の目標

第一次世界大戦の被害拡大の理由を理解する

#### 【サラエヴォの銃声】

- (1) (サラエヴォ) 事件(1914)…セルビア人が(奥帝位継承者夫妻)を暗殺  
 ⇒セルビア(露、仏、英ら支援) vs. オーストリア(独ら支援)  
 (第二次世界大戦)(1914~18)が開始

#### 【第一次世界大戦の経過】

- (1) 第一次世界大戦の経過…戦争が(長期化)

西部戦線(英仏 vs. 独) (塹壕戦)で停滞	東部戦線(独 vs. 露) ドイツが優位に進む
----------------------------	----------------------------

⇒秘密外交、ドイツの無制限潜水艦作戦開始により米参戦

#### 【第一次世界大戦と日本】

- (1) 日本への対応…日英同盟を理由に参戦、アジアのドイツ権益を狙う

① 中国の山東省占領 …中国の袁世凱政権に(二十一ヶ条要求)を出す
② ドイツ領有の南洋諸島占領

⇒英米が日本の勢力拡大を懸念、しかし大戦中は関係強化

#### 【総力戦の特色】

- (1) (総力戦)

① 特色…(大衆)が戦争に協力する体制をつくる
・(マスメディア)を利用した世論形成
・(女性)を労働力として動員
・配給制の導入
・植民地の人や物資の動員

- (2) (新兵器)の投入…毒ガス、戦車、飛行機、潜水艦など

#### ☆学習課題

問1. 「総力戦」の意味と特色を教科書を参考に書きなさい。(知識)

意味 (国民全体の経済的・政治的な協力を必要とする。)

特色 (マスメディアを利用した世論形成。)

問2. 戦争の被害の拡大に最も影響を与えたとあなたが考える第一次世界大戦の特徴について別紙を参考に理由とともに説明しなさい。(思考)

特徴 (新兵器の投入)

理由  
 これまで存在しなかった兵器の登場で、ある意味近代化が進んでしまったため、多くの新しい兵器が作られ、兵士たちを傷つけたから。

#### メモ

せんこう  
 塹壕  
 ⇒地面に穴をほって道をつくる  
 秘密外交  
 ⇒「こっちのみかたにならなにか?」と相手国に言う  
 中国にある  
 リャオトン半島をかぎる  
 期間をのばしてほしい

☆授業のことで質問したいこと

【図1】「A(十分満足できる)」評価の生徒のワークシート例